

平成28年度第2回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会会議録要旨

＜日時＞ 平成29年3月17日（金）午後1時30分～3時35分

＜開催場所＞ 鶴瀬コミュニティセンター 第3集会室

＜出欠状況＞

井上	川端	児玉	寺島	戸塚	熊谷	西川
欠席	○	○	○	○	欠席	欠席
山中	関野	亀卦川	大原	佐野	和田	久米原
○	○	○	○	○	○	欠席
山口						
欠席						

＜事務局＞

子育て支援課長 学校教育課指導主事 子育て支援課主任

＜傍聴人＞ 0名

＜次第＞

1 開会
2 あいさつ
3 公開講座「子供達はなぜ繋がりがたがるのか」 講師：小寺 信良 氏 一般社団法人インターネットユーザー協会
4 質疑応答
5 協議会
6 事務連絡
7 閉会

＜議事＞

- 1 開会 子育て支援課長
- 2 あいさつ 会長
- 3 公開講座「子供達はなぜ繋がりがたがるのか」
講師：小寺 信良 氏 一般社団法人インターネットユーザー協会
- 4 質疑応答
- 5 協議会
- 6 事務連絡
- 7 閉会

◎公開講座終了後、連絡協議会（講師も交えて意見交換）

【会長】 それでは今回の講座、本郷中学校の取組等をお聞きし、われわれができることや団体として協力できることは何があるのか、ご意見がありましたらお願いします。他に富士見台中学校ではどんな取組がありますか。

【委員】 本校もここまで明確な子どもたちによるルール作りはありませんが、最近はルールやマナーを意識するようになってきていると思います。ちょっと前まではそういう意識も低かったのですが、この問題に対して話

し合いを持つというようなこともしています。このようなかたちが出たので、今後富士見台中学校でも考えてみようという、一つのきっかけ作りをしてもらったと思っています。

【会 長】ありがとうございました。他にいかがでしょうか。市のPTAの方ではそんな話は出ますか。

【委 員】特に話はしていませんけれども、個人的に親として考えると、今の時代ですからスマートフォン持たせない訳にはいきませんので、持たせたからにはどこまで管理するのか、注意喚起していかなければいけないと思っています。それをこういう取組で自分たち自身で決めていければ、親や周りから言われるよりは守っていけるのではないかと思います。講師の方のお話にありましたが、今の時代、ネットと切り離れた生活というのは無理ですので、いかにうまく使いこなすかというのを周りでフォローする、そちらの方が大事だと思います。

【会 長】他にいかかですか。

【委 員】本郷中学校の取組で、一番いいと思ったのがルール5の「生・本中声（なま・ほんちゅうせい）」です。メールの意味の取り違えでトラブルになったという相談が結構あります。よく言われるのが、交通手段で何で来ますかを、「なにで」を「なんで」と読み違えをします。そういうトラブルで、友達関係が悪くなるという話が実際にあります。メールというのは文字だけの話なので、受取る側によっては違う意味で取られてしまうことがあります。声というのは直接表情だとか声量だとか色々あるのですけれども、相手が見えますので直接話をするというのはいい試みだと思います。

【委 員】私も今のお話を研修で聞いたのですがすけれども、何（なん）で来るのと何（なに）で来るのは同じ文字でも印象が違うというのを、その時そうだなと思いました。これとは別に新聞に載っていたのですが、スマートフォンを持たせるのに親子間でルールを決めている家庭が半数以下というのを読んで、ちょっとぞっとしました。やはり、学校に任せるとかどこかに任せるとではなく、それ以前に家でルールを決めなくてはいけないと強く感じます。何かの冊子を読んでいたら「僕はスマートフォンになりたい」という中学生だったと思いますが詩が載っていて、「ただいまと帰ってきてもお父さんもお母さんもスマートフォンを見ている、ご飯の時もそう」と書いてありました。まず、親がどういうルールの中で生活していくのかというのが重要だと思いました。

【講 師】要点まとめ

- ・写真をネットにアップすることが後々問題となるケースが多い。
- ・段階的な利用モデル

小学校の低学年 サイト閲覧のみ（タブレットで家庭内のワイファイ）

高学年 家族間に限ったコミュニケーションを認める。

中学生 顔を知っている人間で対一から始める。対一で上手くやれるようになったら、グループでコミュニケーションをする。

高校生 ツイッターを許可していく。

このように段階的にやれることを許可していくことによって、いきなりではなく、段階的に経験を積み重ねていく。

- ・親子でスマートフォンの利用契約書を結ぶ。

スマートフォンのサービスを利用するには必ず利用契約書を結ぶ。

そのような意識を認知させるためにも有効。

【会長】基本的には本郷中学校の取組もそうですが、子どもたちとはやっぱり約束事をもって取組をするということが大事なのでしょう。小学校ではどうでしょうか。

【委員】私は大学生の子どもがいるんですけど、中学生ぐらいから携帯を買ってくれと言われましたが、高校生まではだめと言って持たせませんでした。でも、持たせたときは家族間ではルールを作らず、このようなステップも踏ませていませんでした。フィルタリングもかけていない状態ですから、それでも信用して与えていたので、先生のお話を聞いて自分で反省しているところです。本郷中学校の取組については、自分たちでこういうルールを作り、教員から与えたものではなくて自分たちが考えて作ったものだからこそ価値があると思いました。

【委員】私も本郷中学校の取組について、子どもたちが一生懸命考えて自分発信でルールができたことはすごいことだと思うのですが、これは子どもたちだけじゃなくて、保護者にも徹底してもらいたいと思います。やっぱり保護者も利用時間を決める、家庭では子どもと生で話をするなど。私の時代と違って、特にお母さんは働いている方が多いですから、そうすると確かに、子どもにご飯があるよとか、大丈夫とか連絡の方法としては必要なツールかもしれないけれども、帰って来たら生の声でコミュニケーションを取るということで、それは子どもだけじゃなくて保護者の世代にも徹底して、子どもと生で話すというところに重きをおいていただければいいと思いました。

【委員】本郷中学校の子どもたちが自分の力でこういうものを作りあげるということはすごくいいですね。話し合っているうちに色々な意見が出て、自分が気がつかなかったことも教えてもらえて、とてもいい取組だと思いました。

【委員】講演の中でリアルな世界とネット上の世界で、先生が介入したことによっていじめられてしまったというのはすごく深刻だと思いました。今のいじめは見えにくくて表面上は、からかいとか軽度なものが多いと聞いているのですが、ネットの中でのいじめは見えない。

【講師】要点まとめ

- ・インターネットの中での仮想人格をどう扱うかという非常に難しい問題である。それを介入（オープン）にしたことにより、ショックを受けて不登校になってしまった事例がある。
- ・自身の内面の世界観をネット上で自分を隠して表現をしている。その中で、危険性のある行為をしているとすれば、一対一で注意することが必要。
- ・インターネットの中のいじめが観測しにくいと、一生懸命対策をして時間をかけるよりは、リアルないじめの対策をする方が大事。

【委員】見えないからこそ、ネットでいじめがすごくあるのじゃないかと思いきこんでいたのかもしれませんが。

【委員】スマートフォンがあるからいじめられるという発想がすごく保護者の中にあって、それも一部あるんだけど、子どもたちの人間関係はそういう狭いものではなくて、やっぱり顔と顔を見合わせてもあるだろうし、陰湿なものもあるし、まずそこからの人間関係をほぐしていけば、こんなことはやらないですよという話を私たちもしています。ネット社会が悪いような発想は変えていかないといけないと私も思います。便利なものは使って、授業でもタブレットを用いたり、先生の話だけの授業よりも相当ダイナミックで、その方が集中しますし、そういう方を私たちは宣伝していてもいいのかなと。もちろん、負もあるという部分は教えて、子どもたちが自己判断できるような力をつけさせていくのが大事かなと思います。

閉 会 副会長